



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 29

May. 2008

目 次

太田久次会員ご逝去のお知らせ.....	2
諸報告.....	2
日本植物分類学会 2008 年度第 1 回評議員会議事抄録.....	2
日本植物分類学会第 7 回大会総会議事抄録.....	4
2007 年度事業報告, 2008 年度事業計画, 2008 年度予算について.....	5
日本植物分類学会第 7 回大会報告.....	6
日本植物分類学会第 7 回大会に参加して.....	7
第 3 回大会発表賞受賞者の決定.....	8
大会発表賞受賞者 喜びの声.....	9
庶務報告 (2008 年 2 月～ 4 月).....	12
お知らせ.....	12
国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全 開催のお知らせ.....	12
2008 年度野外研修会のお知らせ.....	13
学会メーリングリスト開設について.....	13
書評依頼図書.....	14
寄稿.....	14
ロシアからの植物標本の搬出手続き.....	14
書評.....	19
情感のある写真図鑑.....	19
本の紹介.....	20
共進化の生態学: 生物間相互作用が織りなす多様性.....	20
いきもの便り.....	21
カサキヤリミドリ 動く槍の名前あれこれ.....	21
水草通信 淀川下流のボタンウキクサ.....	22
会員消息.....	23

太田久次会員ご逝去のお知らせ

会長 邑田 仁

本会名誉会員太田久次様は 2008 年 2 月 7 日に逝去されました。太田会員は三重県鈴鹿市で教職を務める傍ら、地域の植物を調査研究され、三重県帰化植物誌 (1985)、改訂三重県帰化植物誌 (1997) をまとめておられます。50 年の長きにわたり会員として活動されたご功績を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

諸報告

日本植物分類学会 2008 年度第 1 回評議員会議事抄録

庶務幹事 五百川 裕

会場：首都大学東京牧野標本館セミナー室

日時：2008 年 3 月 20 日 16:00 ~ 20:00

参加者

評議員：12 名全員出席

梶田 忠, 黒沢 高秀, 高宮 正之, 田村 実, 出口 博則, 永益 英敏, 西田 佐知子, 西田 治文, 野崎 久義, 藤井 伸二, 村上 哲明, 綿野 泰行

幹事会等：○ 内は役職

出席 (11 名)：邑田 仁 (会長), 五百川 裕 (庶務), 海老原 淳 (会計), 鈴木 武 (図書), 東隆行 (ニュースレター担当), 坪田 博美 (ホームページ担当), 岡田 博 (編集委員長), 永益 英敏 (英文誌編集担当), 秋山 忍 (和文誌編集担当), 菅原 敬 (植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合担当), 西田 治文 (自然史学会連合担当, 学会賞選考委員会委員長)

欠席 (5 名)：布施 静香 (講演会担当), 矢原 徹一 (絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員長), 柏谷 博之 (絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員長), 伊藤 元己 (植物データベース専門委員会委員長), 大橋 広好 (国際植物命名規約邦訳委員会委員長)

1. 評議員会開催にあたり、邑田会長から挨拶があった。
2. 五百川庶務幹事により、定足数が確認された。会長・評議員出席 12 (全員) で本評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として田村実氏が選出された。議事録署名人として西田佐知子氏と西田治文氏が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1 自然史学会連合報告 2007 年度の活動状況と検討課題 (博物館のあり方問題, 特に大阪府の行財政改革に伴う博物館の運営見直しに注意)。
 - 4.2 日本分類学会連合報告 第 7 回総会 (役員交代, 決算, 事業計画, 予算等承認), 2008 年度公開シンポジウム実施, 2009 年度公開シンポジウム計画。
 - 4.3 植物分類学関連学会連絡会報告 連絡会主催シンポジウム (2007 年度実施, 2008 年度計画)。
 - 4.4 各種委員会に関する報告
 - (1) 編集委員会 英文誌『APG』, 和文誌『分類』の編集状況。電子投稿制実施, ISI 登録申請検討, 別刷り取り扱い検討。

- (2) 学会賞選考委員会 第7回日本植物分類学会賞の選考（選考経過、改善課題）。
 - (3) 論文賞選考委員会 第2回論文賞の選考（選考経過）。
 - (4) 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会 レッドリストを環境省より公表。
 - (5) 絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会 レッドリストを環境省より公表。
 - (6) 国際植物命名規約邦訳委員会 2007年11月出版、販売状況、収支見込み。
- 4.5 図書関連報告 雑誌寄贈・交換状況。
 - 4.6 日本植物分類学会講演会報告 2007年度実施、2008年度準備状況。
 - 4.7 ニュースレターに関する報告 2007年度発行状況、2008年度発行計画。
 - 4.8 ホームページ関連報告 学会メーリングリスト設置準備状況。
 - 4.9 会務報告 会員数等
 - 4.10 会計報告
 - 4.11 その他 2008年度野外研修会は福島大学の黒沢高秀氏のお世話で実施計画立案中
- ## 5. 審議事項
- 5.1 2007年度事業報告書（案）について
五百川庶務幹事より、2007年度事業報告（案）が提案され、2項目の削除、訂正が行われた後、承認された。
 - 5.2 2007年度決算報告（案）について
海老原会計幹事より、2007年度決算報告（案）が提案され、質疑後、承認された。
 - 5.3 2008年度事業計画（案）について
五百川庶務幹事より、2008年度事業計画（案）が提案され、質疑後、2項目の削除、追加が行われ、承認された。
 - 5.4 2008年度予算（案）について
海老原会計幹事より、2008年度予算（案）が提案され、質疑後、1項目の修正が行われ、承認された。
 - 5.5 名誉会員の推薦について
邑田会長より、名誉会員の推薦について提案があり、質疑後、継続審議となった。
 - 5.6 会費滞納者の除名について
会計幹事より、4カ年分以上滞納の13名について、半年にわたり納入のお願いをしたが未納である旨の報告があり、審議の結果、3月31日付けで除名とすることが承認された。
 - 5.7 会員の退会について
邑田会長より、諸事情により2カ年分会費未納の会員の退会が提案され承認された。
 - 5.8 学会図書の寄贈について。
鈴木図書幹事より、現在、兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）に仮保管されている本学会の交換・寄贈図書について、ひとはくが受入れるものについては、学会員の閲覧希望に対応することを条件に、今後は、ひとはくに寄贈することが提案され、審議後、提案の一部修正を行い承認された。
 - 5.9 その他
 - (1) 第8回大会開催地について
邑田会長より、東北大学の鈴木三男氏、米倉浩司氏のお世話で宮城県仙台市において2009年3月13日から15日に開催することについて提案があり、承認された。

(2) 総会議事について

五百川庶務幹事より、2008年度総会議事次第(案)が説明され、承認された。

邑田会長より議長に田村実氏を推薦したいとの提案があり、承認された。

(3) 役員選挙について。

五百川庶務幹事より、選挙日程、選挙管理委員長を評議員から会長が指名すること等について説明があり、質疑後、承認された。

(4) 日韓中共催国際シンポジウムについて

邑田会長より2008年度事業として承認された国際シンポジウムについて、2008年8月18日に札幌で開催することを計画中であり、準備委員会委員に、会長の他、田村実氏、東隆行氏、高橋英樹氏を委嘱したいとの説明があり、承認された。

日本植物分類学会第7回大会総会議事抄録

庶務幹事 五百川 裕

会場：首都大学東京6号館110教室

日時：2008年3月22日14:00～15:10

1. 総会に先立ち邑田会長から挨拶があった。
2. 総会に先立ち村上哲明大会会長より挨拶があった。
3. 五百川庶務幹事より総会出席者数が77名であることが報告された。
4. 田村実氏が議長に選出された。
5. 報告事項

5-1 会務報告

前年度の事業報告と決算報告が、五百川庶務幹事と海老原会計幹事よりそれぞれ行われた。邑田会長より国際植物命名規約2006日本語版の出版経費は、特別会計より支出されており、販売収入は再び特別会計に戻される旨の補足説明と、販売が順調であることの報告があった。

最近逝去された学会員に対して黙祷が行われた。

5-2 各委員会からの報告

・編集委員会

永益英文誌編集担当委員より編集出版状況について報告があった。

・国際植物命名規約邦訳委員会

永益副委員長より出版報告、販売状況、および収支予測等について報告があった。

6. 審議事項

・第一号議案 2007年度事業報告書並びに2007年度決算報告書承認の件

会務報告で説明のあった上記2件について、益山監事より、会務および会計が適切に行われているとの監査報告がなされた。審議の結果、異議なく承認された。

・第二号議案 2008年度事業計画案並びに2008年度予算案承認の件

五百川庶務幹事および海老原会計幹事より上記2件について説明があった。国際シンポジウムの日程についての質疑、およびメーリングリスト新設についての補足説明の後、異議無く承認された。

・ 第三号議案 学会図書の寄贈

鈴木図書幹事より、現在、兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）に仮保管されている本学会の交換・寄贈図書について、ひとはくが受入れるものについては、学会員の閲覧希望に対応することを条件に、今後は、ひとはくに寄贈することが提案され、この方針が承認された場合、順次、整理された図書からリストを作成し、評議員会で確認をした後に、会長名で寄贈を進めるという手続きについて説明があった。審議の結果、異議無く承認された。

7. その他

7-1 第8回大会開催地について

邑田会長より、次回大会を宮城県仙台市に於いて、東北大学の鈴木三男氏、米倉浩司氏にお世話いただいて2009年3月13日から15日に開催することが報告された。

7-2 野外研修会予定について

邑田会長より、福島大学の黒沢高秀氏のお世話で今年の夏以降に開催することが報告された。

7-3 学会メーリングリストの開設について

五百川庶務幹事より、本総会で承認された学会メーリングリストの開設にあたり、アドレス登録の方法等について次号のニュースレターで連絡することが報告された。

7-4 その他

芹沢俊介会員より、2010年10月に名古屋で開催が予定される生物多様性条約締約国会議に向けての学会対応についての質問があり、邑田会長より情報収集をして対応していきたい旨の回答があった。

藤井伸二会員より、大阪府で行財政改革に関係して、博物館等の運営見直しが行われていることについて情報提供があり、今後の動きについて注意を払う必要性が指摘された。

2007年度事業報告、2008年度事業計画、2008年度予算について——

庶務幹事 五百川 裕

ニュースレター No.28 に掲載した2007年度事業報告（案）、2008年度事業計画（案）、および2008年度予算（案）は、以下のような改訂の後、評議員会および総会で承認されましたので、報告いたします。

2007年度事業報告（案からの改訂点）

- ・(5)の第1項目の「日本学術会議」を削除。

2008年度事業計画（案からの改訂点）

- ・(5)の第1項目の「日本学術会議」を削除。
- ・(6)の第7項目として「役員改選のための選挙を行う。」を追加。

2008年度予算（案からの改訂点）

- ・予備費を40万円に増額（国際シンポジウム、役員選挙への対応のため）。

編集後のひとこと

夏の北海道はいいですよ。草花が美しく咲き乱れ、また食べ物も一層おいしい季節です。という訳で国際シンポジウムの会場で皆さんをお待ちしておりますね。 By 編集人

日本植物分類学会第7回大会報告

大会準備委員長 村上 哲明

第7回大会を2008年3月20日(木)～23日(日)の期間、首都大学東京・南大沢キャンパスで開催させていただきました。都心からは少し離れていて不便な東京都多摩地区の南大沢まで多数の会員の皆さんにお越しいただきまして、本当にありがとうございました。おかげさまで、36件の口頭発表、55件のポスター発表、そして当日参加者63名を含む225名もの参加者(一般参加者155名、学生参加者70名)がありました。懇親会にも、149名もの方々(うち学生が50名)が参加してくださいました。本大会が例年にもまして盛会だったことを私達は大変喜んでます。

さて、第7回大会のお世話をさせていただきと私達が立候補したのは、今年(2008年)が首都大学東京・牧野標本館の設立50周年に当たり、日本植物分類学会の大会をその記念大会として開催させていただきたいと考えたからでした。邑田仁会長からも色々アドバイスをいただきながら、私達は大会の開催時期に合わせて牧野標本館の設立50周年記念事業の準備をしまりました。その成果の一つが、要旨集と一緒に参加者の皆さんに配布させていただいた牧野標本館50周年記念誌です。記念誌の編纂に当たっては、牧野標本館の元教授の小野幹雄先生と前教授の若林三千男先生にご活躍いただきました。この



受賞講演の様子。(撮影：加藤 英寿)

記念誌を通じて、日本植物分類学会の会員の皆様方にも、牧野標本館のこと、そしてそこに収蔵されている植物標本資料のことを良く知っていただき、今後の学術研究に積極的にご活用いただければ幸いに存じます。

また、例年通り、大会の最終日(今年は3月23日)に開催させていただいている一般公開シンポジウムにつきましては、「牧野富太郎博士の植物研究とその継承」と題して、日本植物分類学会と首都大学東京・牧野標本館50周年記念事業との共催という形にさせていただきました。こちらの方も、多数の会員以外の方々を含む230名もの参加者を得て、大変盛況でした。これほど一般の方々がたくさん来てくださったのを見て、牧野富太郎博士のネーム・バリューの高さを私も再認識した次第です。また、興味深い講演をしてくださった講演者の先生方にも感謝いたします。

ところで、日本植物分類学会は、例えば日本生態学会や日本植物学会などと比較すると小規模な学会ではありますが、小さな学会にも良いところがあります。その一つが、1つの口頭発表会場で大会を開催することができるので、参加者全員が全ての発表を見聞きすることが可能なことです。会員が年次大会においても全く同じ情報を共有できることは、大規模学会ではあり得ません。日本植物分類学会にとって、大会を盛り上げることこそが、学会そのものを盛り上げていく上でも最も重要なことだと私は思っています。若手会員の大会への参加を促し、良い発表をしてもらうことを狙って、日本植物分類学会では2年前に大会発表賞を新設しました。さらに今年は、発表者が「求職中」であること(研究職に就くことを望んでいて、学位を取得するなど、そのための準備も既に整っている状況であること)を表示する試みも始めてみました。また、必要なら発表直前まで発表用のスライド

を改善できるように、事前にスライド・ファイルを準備委員会に送ってもらうのではなく、自分のノート・パソコンを直接、会場のPCプロジェクターにつないで発表する形式(日本植物学会の大会と同じ形式)にしました。一方、スライドのバックアップは、植物学会のように「念のためOHPも用意してください」というのではなく、発表ファイルをパソコンとは別にUSBメモリー等に入れて持って来ていただくだけに変更しました。

しかし、口頭発表をこのようなやり方に変更したので、発表者のパソコンが会場のPCプロジェクターと合わない等の原因でスライドが全く映らないという大きなトラブルが発生することを私は懸念していました。しかし、会場の世話係をしてくれた牧野標本館の院生・学生諸君が事前にリハーサルを繰り返し、トラブル時の対応の仕方を十分準備してくれていたおかげもあって、大きなトラブルもなく大会を終えることができました。大会準備委員長として、肩の重い荷が下りてホッとしています。

そして、今回の大会では多くの発表者の皆さんが内容的にもすぐれた発表をしてくださいました(大会発表賞にエントリーされた若手会員の皆さんのみならず、エントリーしな

かった会員の皆さんもです)。さらに、座長のリードの下、興味深い質疑応答をしてくださったおかげで、本当の意味で大会が盛り上がったと私は思っています。良い研究をしている研究者が大会で良い発表をして、それが評価されて希望する研究職に就ける、あるいは研究環境が改善され、さらに良い研究を続けていけるという正のサイクルを生み出せば最高なわけです。私達、第7回大会準備委員会も、そのような大会にするためのお手伝いが少しでもできていたことを祈るばかりです。

最後に、今回の大会の懇親会は大学生協の食堂での開催であり、そもそも南大沢周辺には特産と呼べるような産物が何もないこともあって、特別な出し物や地元特産の食べ物は用意することができませんでした。ここ数年の大会と比べて非常に地味で質素な、まさにご歓談いただくだけの懇親会になってしまいました。唯一の救いは、奥多摩にある創業元禄15年の小澤酒造さん(澤乃井という銘柄の日本酒を造っている)のご協力で、おもしろい日本酒を6種類も用意できたことでした。おいしい日本酒を楽しみながら、交流を深めていただけたのなら幸いです。

第7回大会にご参加下さいました皆様、本当にありがとうございました。

日本植物分類学会第7回大会に参加して

岩崎 健(北海道大学)

2008年3月20～23日にかけて首都大学東京において、日本植物分類学会第7回大会が開催されました。今回私はポスター発表で参加しましたが、初めての学会発表を経験させていただきました。またそれ以外にも他の方の発表を聞いたり、気になるポスターで質問したり、懇親会ではそれまでは話せなかった方々とも交流を持ったりと、とても有意義な時を過ごすことが出来ました。

私は今回、初めて学会発表をさせていただきました。初めは、自分程度の者が発表など

していいものだろうかとか参加を迷っていましたが、折角の機会なのだ、恥をかいても構うものか!と思い切って参加することにしました。自分のポスターはやはり(?)大したものではなかったのですが、果たして学会が始まるとそれが様々な方と出会うきっかけとなり、不安を抱えていた当初から一転して、非常に楽しい学会となりました。

自分の発表をすることも大事ですが、他の人の発表を聞くことも楽しみの一つです。他の人がどのように問題を見つけて研究をして

いるのか、普段自分が考えつかないようなことで研究のヒントになることはないか、アンテナを張っておくと、これはとても勉強になります。また、長期間にわたり研究されてきた諸先生方による受賞講演では、研究の深さや大きさに感嘆せずにはいられませんでした。学問を追及する、楽しさやすばらしさを感じました。

そして学会といえば、懇親会を楽しみにしておられる方もたくさん(?) いらっしやると思いますが、今回私も懇親会に初めて参加しました。学会後の懇親会とうものは、いつごろ誰によって始められたものなのか、全く分かりませんが、これは非常にすばらしいシステムだと思います。まず、発表を終えて飲むビールの旨いことといたら…。というのは余談であります。それまで話す機会を持てなかった方々とも思い切って話す機会が得られます。学生、若手研究者、そして論文の中で知っていた先生方など、学会でなければこれほど接点の持てる機会は少ないのではな

いでしょうか。そして「植物」という、世間では少し特殊な言語で盛り上がる、楽しいひとときでもあります。

私は今回の学会を通して、学問する楽しさを確認すると共に、自分もよい研究を行いたい、という思いを新たにすることが出来ました。最後になりましたが、第7回大会を開くにあたりまして準備をしていただいた、村上哲明先生をはじめ準備委員会の方々や首都大学東京の方々、学会役員の方々に心より御礼申し上げます。



ポスターセッションの様子。(撮影：加藤 英寿)

第3回大会発表賞受賞者の決定

大会発表賞選考委員長 藤井 伸二

3月20～23日に開催された第7回大会の大会発表賞には、口頭発表賞に13件、ポスター発表賞に28件のエントリーがありました。15名の委員による審査の結果、第3回大会発表賞の受賞者は以下の3名(口頭発表賞1名、ポスター発表賞2名)に決まりました。発表賞の授与式は22日の総会で行われ、邑田仁会長から賞状と記念品が贈呈されました。なお、記念品は大会準備委員会のご厚意によるものです。

口頭発表賞

渡邊 加奈 (東大・院・理・植物園) 「オオバウマノスズクサ群における網状の進化に関する研究」

ポスター発表賞 (50音順)

奥山 雄大 (京大・大・人環) 「ユキノシタ科チャルメルソウ属チャルメルソウ節 (*Asimitellaria*) における未知の多様性の遺伝的探索：植物 DNA タクソノミーへの核リボソーム ETS, ITS 領域の有用性」

加藤 将 (東大・院・理・生物) 「複数の核 DNA 領域による日本産 *Chara braunii* (シャジクモ目) の種内解析」

大会発表賞は今回で3回目を迎えました。口頭発表賞のエントリー数は昨年度と同じ13件でしたが、ポスター発表賞のエントリー数は昨年の19件から28件に増加しました。受賞を目指した内容の濃い研究発表が増えたことは、審査員はもとより大会参加者にとってもたいへんよい刺激になっています。「大会発表賞の導入によって、発表の質を高めて大会を活気あるものに盛り上げる」という目標は着実に達成されつつあると思います。

審査方法は従来と同様のやり方を踏襲し、研究の内容を5段階評価、発表のうまさ（ポスターの場合は展示物の視認性の良さ）を3段階評価し、それらの合計得点をもとに評価を行っています。審査員が共著者等になっているエントリーを除き、すべての発表について審査員全員が評点しています。ポスター発表の審査においては、発表者による口頭での説明やその技術は評価されず、ポスターに表現された研究内容と視認性のみが評価対象となっています。

受賞発表を眺めてみると、いずれも十分な（多くの場合、圧倒的といってもいい）量のデータが収集されている点が共通していますが、必ずしもそれだけでは受賞には結びつかないようです。口頭・ポスター発表ともに、研究の内容をわかりやすく示し、さらに研究の狙いや研究結果の意義づけを論理的かつ明晰に表現する工夫をしていただければと思います。また、受賞発表を分析してみるのも発表技術向上への一つの方法でしょう。

審査員15名には、昨年度の受賞者3名が含まれています。これは、ニュースレター25号で村上前委員長が述べているように、「審査過程の透明性を高めるとともに、審査員の多大な負担のうえに受賞者が選ばれたことを受賞者自身にも実感してほしい」と考えているからです。今回の審査対象ポスター28件を発表時間内に評価するということは、1件につき平均4分以内の審査時間という厳しい作業を意味していました。審査に当たっては、審査員の方々の献身的な努力をはじめ、学会事務局および大会準備委員会には多大なご負担とご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。また、厳正な審査にご協力いただいたエントリー者と大会参加者の皆様にもお礼申し上げます。

大会発表賞受賞者 喜びの声

編集人（以下、編）：こんにちは。先日の日本植物分類学会第7回大会では大会発表賞の受賞おめでとうございます。まず、皆さん簡単に自己紹介をお願いします。

渡邊氏（以下、渡）：3月の学会時には東京大学大学院・理学研究科附属植物園に在籍していました渡邊加奈です。私は大学院において、オオバウマノスズクサ群の種分化の研究を進めてきました。この群には形態形質から6分類群が認められますが、葉緑体DNAにはそれらの分類群とは一致しない、地理的に分化した6系統群が存在することがわかってきました。今回の大会では、この群における形態分化と葉緑体DNA分化の不一致の要因について、6分類群間及び

6葉緑体DNA系統群間の総当たり交配実験と、複数核DNAマーカーを用いた系統解析の、双方の結果を基に議論を展開しました。

奥山氏（以下、奥）：（財）岩手生物工学研究センターの奥山雄大と申します。5月に京都大学大学院人間・環境学研究科より移って参りました。京都では加藤真先生の指導のもとユキノシタ科チャルメルソウ類を用いた進化生態学および分子系統学の仕事をやってきましたが、これに加え新しい職場では、寺内良平先生のチームに加わりイネ科植物におけるその寄生菌との相互作用の進化遺伝学的研究を行っていく予定です。

加藤氏（以下、加）：東京大学大学院理学系

研究科の博士課程に在籍しています加藤将です。私は学部学生の頃からずっとシャジクモ類という淡水性の緑色藻類を扱ってきました。現在はシャジクモ類の一種であるシャジクモ (*Chara braunii*) を材料とした生態的集団分化の研究を行っています。

編：では早速ですが、受賞が決まったときの感想をお願いします。

渡：「はぁ…私ですか!？」という感じでした…。

編：ははは。(笑)

奥：発表賞等をいただいたのはこれが初めてだったので大変嬉しかったです。

加：驚きました、と同時に嬉しかったです。あと、渡邊さんや奥山さんと一緒に受賞出来たことがとても嬉しかったですね。渡邊さんは時々ゼミなどでご一緒するのですが、いつもためになる議論をしていただいています。また奥山さんは今回の受賞を機にお知り合いになれたのですが、奥山さんが管理されているホームページで以前からいろいろと勉強させていただいておりました。

編：ズバリ、賞を取る自信はありましたか？

奥：応募するからには、受賞できるかどうかはともかく、他の素晴らしい発表と比べても恥ずかしくない内容にできるように努力しました。個人的には大変気に入っている仕事の紹介だったので、あわよくば、という期待はありました。

加：エントリーしておきながらこんなこと言うのはマズいかもしれませんが、賞を狙うつもりで発表はしていませんでした(笑)。自分の研究に対する、より客観的な意見をいただければと思っていました。楽しい情報交換ができればなど。

渡：発表前には、まさか自分が受賞できるとは思っていませんでした。ですが、発表

後に「もしかしたら受賞できるかもね。」というお言葉が聞こえてきて…。考えてみると、今回の発表は博士論文発表用に練りに練ったプレゼンを学会用にアレンジしたもの、つまり所属研究室の先生方の厳しいご指摘を存分に浴び熟成されたものということで、受賞の可能性を擁していたのかもしれない。

編：では発表で工夫した点を教えてください。

渡：最も注意した点は、文字や図のスタイル、サイズ、配置、そして配色です。具体的には、字体や文字の太さ、グラデーションや陰、色と色の組み合わせ、スライド全体における文字や図の位置、白い部分(空間)の印象、前後のスライドとの共通性・発表スライド全体の統一性などなど…気遣ったところてんこ盛りです。また、アニメーションを多用しすぎずかつ印象づけるため、どこでどういうアニメーションをいれるかということもかなり吟味しました。ちなみに、アニメーションを入れすぎると煩雑な印象になりがちです。また、ただでさえ1枚のスライドを見せる時間が短いのにアニメーションを付けるとその情報が目に映っている時間はさらに短くなってしまいます。その点、要注意です。

編：フムフム(頷)。では奥山さんと加藤さんはポスター発表ならではの留意点はありましたか？

奥：これまで作ったポスターの中で気に入っているものの体裁を残しながら、なるべく情報量を少なくわかりやすくする工夫をいたしました。それでもかなりの分量だったかもしれませんが。

加：ポスター作りに関しては、とにかく見てキレイで直感的にわかりやすいレイアウトを常にイメージして作りました。それぞれの箇所の文章に関しては、できるだけ簡潔な文章でまとめるように心がけました。

セッションでは、一方的に自分の発表を伝えるのではなく、聞きに来ていただいた方に興味を持ってもらえるように常に対話しながら説明させていただきました。

編：では発表で大変だった点がありますか？

渡：口で説明することとスライドに示されていることとの整合性です。口頭発表では、一枚のスライドは多くの場合一度だけ、それも数十秒～1, 2分しか見せることができません。ですので、その短時間にいかに視聴者側に分かり易くプレゼンテーションできるかが重要です。スライドで示した文字や図を、さらに口でも効果的に説明（朗読）できると、視聴者側は目と耳の双方から同時に情報を得ることができ、短時間でも理解し易くなります。当たり前のことではありますが、意外に難しい…。私の場合、とにかく何度も練習し、整合性が取れるようにスライドと口での説明の双方に直しを重ねました。

奥：予想以上に非常にクリティカルな質問が多かったので、その対応が大変でした。防戦一方にならないようには心がけました。もちろんこれらのご意見は大変参考になりました。まさに「良薬口に苦し」ですね。

加：自分で納得の行くポスターを作り上げるのに苦労しました。ただ、昔からデザインすること自体が好きな性格なので試行錯誤の過程はとても楽しかったです。セッションでは文字と図だけでは伝えきれない、私の感じている自分の研究の面白さをその場で伝える難しさを痛感しました。

編：なるほどですね。最後にこれから受賞を目指す方々へアドバイスをお願いします。

加：自分の発表を聞きに来てくれる方がどんな興味をもっているのかを考えながら発表を構築することが大事だと考えます。それと、研究内容や新知見はもちろん発表の中

心だと思いますが、それ以前に自分の研究材料独自の面白さと、自分自身のなかにある根本的な「とても明らかにしたいこと」を伝えることが出来ればいい発表になると思います。それに関しては私もまだまだ全然勉強中ですが（笑）。

渡：自分が視聴者側だったらこの発表は見やすいか・理解できるか？というように、できるだけ客観的に自分の発表を見るように心がけると良いと思います。とはいえ、自分のことを客観的に見るにも限界がありますので、そこはやはり厳しくご指摘くださる方々に何度か見ていただくことが大切です。というわけで、修士論文や博士論文のように、先生方によりブラッシュアップしていただける機会の多い研究は、それだけ受賞の可能性も高くなるのではないのでしょうか。修士並びに博士課程の皆さん、がんばってくださいね！

奥：アドバイスというわけではないですが、僕は生物学、特に系統分類学は研究対象への愛着が非常に大切だと考えています。ですから次回も研究そのもの、そして研究対象への発表者の愛がにじみ出ているようなポスターを楽しみにしています。

編：ありがとうございます。皆さんのますますのご活躍を期待しています！

注）受賞者からのメールを基に座談会風に編集しています。



受賞者の左から奥山氏、渡邊氏、加藤氏。（撮影：編集人）

庶務報告 (2008年2月～4月)

庶務幹事 五百川 裕

庶務報告では学会が交わした契約、転載許可、連絡、行った会議などで、ニュースレターの他の記事で紹介されていないものをお知らせしています。

- ・大学病院医療情報ネットワーク研究センターによる WWW データベース学会情報のデータを更新した (2月18日)。
- ・日本学術会議による「国際コンソーシアムへの取り組みについての問合せ」に回答した (2月22日)。
- ・首都大学東京からの「牧野標本館設立 50 周年記念事業への協力依頼」に対して承諾書を発行した (2月25日)。
- ・日本学術会議による「公益法人に関するアンケート」に回答した (2月26日)。
- ・株式会社ワダックスのレンタルサーバープラン「メールサービス 50」の契約を行った (3月5日)。

お知らせ**国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全 開催のお知らせ**

会長, 実行委員長 邑田 仁

2007年8月にソウルで開かれた相談会で、日本、韓国、中国の分類学者の連帯を深めるため、持ち回りで国際シンポジウムを開催することが決まりました。これに従い、第1回のシンポジウムを下記のように札幌で開きます。講演者は日・韓・中および近隣国の研究者に実行委員会から委嘱しますが、まだ決定しておりませんので、テーマに沿った発表が可能な方は実行委員会までご連絡ください。また、ポスター発表を公募しますのでぜひご参加ください。なお、募集の詳細は近日中に植物分類学会ホームページに掲載し、メールでも連絡します。夏期は宿が取りにくいので、早めに予約されることをおすすめします。

記

国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全

日時：2008年8月2日(土)

場所：札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部5号館大講堂(300名収容)

主催：日本植物分類学会, (社)日本植物園協会

プログラム(仮)：10:00～12:00 口頭発表4件【東アジア各国の植物多様性保全の現状】

13:00～14:30 ポスター発表

14:30～17:30 口頭発表6件【国境を越えて分布する東アジアの

絶滅危惧種(群)に関する研究】

使用言語は英語です。参加費3,000円を当日集めます。

ご質問、連絡先：「国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全」実行委員会

幹事 山下 純 junyama@rib.okayama-u.ac.jp

(実行委員長 邑田 仁 murata@ns.bg.s.u-tokyo.ac.jp)

※メールの件名に、「植物多様性シンポ」とご記入下さい。

2008 年度野外研修会のお知らせ

黒沢 高秀 (福島大学)

福島県裏磐梯と安達太良山の植物

期日と日程：2008 年 9 月 5 日 (金) ~ 7 日 (日)

詳細や募集要項はニュースレターの 8 月号に掲載の予定です。現在のところ、以下のようなスケジュールを考えています。

第 1 日 (5 日) 福島県大玉村 フォレストパークあだたらに集合

夕方：講演会, 室内研修, コテージ泊

第 2 日 (6 日) 午前：フォレストパークあだたらで植物観察

午後：裏磐梯 (秋元湖畔), 夜：安達太良山周辺の温泉泊

第 3 日 (7 日) 午前：幕滝遊歩道で植物観察

昼頃解散

講演会では地元や観察地の植物に関する 2, 3 題の講演を考えています。室内研修では、各自が同定できなくて困っている標本を持ち寄っての鑑定会を考えています。その他「こんな事をやってほしい」等, アイディアやご要望がありましたら, どしどしお寄せください。また, 「ついでにサンプリングも」とお考えの方に, わかる範囲で福島県内の分布状況や現地での生育状況をお教えしますので, お気軽にお問い合わせ下さい。

〒 960-1296 福島市金谷川 1 福島大学共生システム理工学類 黒沢 高秀

TEL 024-548-8201, FAX 024-548-5208 (事務室), e-mail kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

学会メーリングリスト開設について

ホームページ担当幹事 坪田 博美

3 月の総会でアナウンスがありましたように, このたび学会のメーリングリスト (ml-jsps@e-jsps.com) を開設いたします。

これまで, 第 3 回大会開催時に開設したメーリングリストを学会の暫定メーリングリストとして利用して来ましたが, 評議委員会などで検討した結果, 今後の管理および運営形態などを考慮して, ホスティングサービスを利用した学会専用のメーリングリストを開設した方が望ましいという結論に達しました。

これまでとは異なるメーリングリストを新たに設置することになりますので, メールアドレスの登録作業が必要になりますが, この機会に, これまでの暫定メーリングリストに登録されているメールアドレスがすでに使われなくなっていたり, 現時点で会員でなかったり, 送信を希望されない方もいらっしゃると思いますので, 新たに登録希望申請をしていただいた上で, メールアドレスの登録をし直すことといたします。

そこで, お手数をお掛けいたしますが, 登録を希望される会員は, 題名 (Subject) に「日本植物分類学会メーリングリスト登録希望」と明記の上, mlreg@e-jsps.com 宛, 下記事項についてご連絡ください。

氏名, 所属, 連絡先住所, 電話番号, 登録メールアドレス (ただし, 携帯電話のメールアドレスは登録できません)

なお、今回ご連絡頂いた内容が、事務局の会員情報と一致していない場合は、確認のため折り返しお問い合わせすることがございますがご了承ください。

新たに開設したメーリングリストは、基本的に事務局からの連絡用に利用いたします。会員の皆様には、これまで通りニュースレターや Web サイトを利用したサービスも続けます。ニュースレターの発行に間に合わない事項や大会運営、公募に関する事項など、即時性の高い内容の投稿を予定しております。投稿依頼も随時受け付けておりますので、事務局宛メール (jimuj@e-jsps.com) までご連絡ください。

書評依頼図書

庶務幹事 五百川 裕

下記図書の書評依頼が学会にまいりました。書評の執筆を希望される方は学会事務局まで電子メール (jimuj@e-jsps.com)、またはハガキ等でご連絡ください。執筆者には当該図書を差し上げます。

・千葉県立中央博物館 (編) (2008) 「リンネと博物学 (増補改訂)」 297pp. 文一総合出版. 15,000 円 (税別) .

寄稿

ロシアからの植物標本の搬出手続き

福田 知子 (兵庫県立人と自然の博物館)

日本は北方でロシアと国境を接しているため、日本周辺の植物を調べる場合、ロシアの材料が必要になることがある。しかし、ロシアからの標本搬出については、これまで不透明な部分が多かった。筆者らが 2001 年にサハリンで調査を行い標本の搬出手続きをした時には、事前にロシア側で必要書類を揃えてくれた (5, 6 機関をまわって膨大な書類を揃えた、との話であった) にも関わらず、税関で標本 1 枚につきいくらの関税を払うかと言われて、ロシア側担当者に毎日のように税関と交渉してもらったことがあり、法令が整備されていないことを感じた。標本を正式に搬出する方法は、ロシアの植物関係者にきいてもよくわからない状態だったのである。

2007 年 4 月にロシアの検疫についての法令が施行され、ロシアからの標本搬出手続きが変更された。同年 7 月、筆者はロシア・カムチャツカ火山学研究所がカムチャツカで行っている調査に同行する機会があり、採集した植物標本を日本へ送る必要があった。このときの経験を踏まえ、ロシアの新しい手続きについて紹介しておきたい。

1. 新法令に従った植物標本発送手続きの概要

- ① ロシア連邦領からの「検疫対象物」の搬出の際には、植物衛生証明書 (Phytosanitary Certificate) が必要である。
- ② 植物衛生証明書の手続きの際には、採集の目的・採集物の国外搬出の必要性を記載したロシア側発送者と発送先との間の契約書が必要であり、申請は契約に基づいてロシア側発送者から当局へ申請される。
- ③ 植物衛生証明書の発行に関わる機関は、以下の 3 機関である。
 - i) 証明書を発行する機関: Rossel'khoznadzor (ロスセリホーズナドゾール)。以下、「管理局」。
 - ii) 採集した標本の実物をチェックする機関: Referentny Tsent (レフェレントヌィ ツェントル)。以下、「検査局」。

iii) レッドデータ植物が含まれていないという証明書を発行する機関：「管理局」から指定された機関。

- ④ 植物標本は、「コレクション（研究試料）」として手続きされる。ロシアからの搬出物は、生きた動物、植物、プラスチック、毛皮、などすべての品目が税関コード（TH B ㊦ D No.: 対外経済活動における品目名 No.）によって、21 部に分けられており、各部分に含まれる品目それぞれに No. がつけられている。植物標本は、最後の第 21 部「芸術・コレクション・古美術」の部分に含まれ、動物・植物・鉱物・考古学などのコレクションと同じ No. (9705000000) の下で搬出される。
- ⑤ レッドデータ植物は持ち出し禁止。レッドデータブックは、ロシア全体のもの（後掲の“参考”）以外に、その地方のもの（沿海州、カムチャツカなど）があり、それに当たる採集品は持ち出せない。

2. 実際に行った手続き

1) 事前申請

申請書（図 1）の用紙を「管理局」からもらってロシア側に必要事項を記入してもらって提出

他の必要書類等：契約書、パスポート*、審査願いレター（ロシア側→「管理局」）

* 本来ならば契約を交わしたロシア側機関が申請書を提出すべきで、その際には申請者が統一国家法人目録等に含まれているという証明書。今回は筆者が申請者となったため、筆者の身分を示すパスポートの提出が求められた。なお、事前申請については法令にも特に規定がなく、採集後の申請でも問題ないのではないと思われる。

2) 採集、乾燥、採集品リスト作成、箱詰め（ふたはしない）。

3) 実物検査

「検査局」に持っていき、レッドデータ植物など持ち出し禁止のものが含まれていないかを検査してもらって、検査結果をもらう。

必要書類等：採集品、採集品リスト、検査願いレター（ロシア側→「検査局」）

4) レッドデータ植物が含まれていない旨の証明書を取得

「管理局」に指示された機関に行き、採集品リストと 3) の検査結果を見せ、レッドデータ植物が含まれていない旨の証明書を作成してもらう。

必要書類等：検査結果、採集品リスト、証明依頼レター（ロシア側→管理局指定機関）

5) 植物衛生証明書の取得

管理局に 4) の証明書を見せると、事前申請の内容を修正したものに採集品リストを付属書として添付して、植物衛生証明書を発行してくれる。

必要書類等：採集品リスト、4) の証明書

手続き上の注意点

* 採集前後に手続きのための時間を十分取っておくと安心である。採集前は申請書を提出するのみ（提出は採集後でも良いかもしれない）だが、採集後の手続きにはある程度の日数をみておく必要がある。今回はロシア側の協力があって、3) ~ 5) までは 5 日で済んだ。手続きの各段階で、ロシア側（契約相手）から、「検査局」や「管理局」・指定機関に依頼レターを書いてもらう必要があるため、それらのレターを必要時にすぐ書いてもらうようにすれば、手続きがスムーズに行く。

* 手続きの初めに、日口間の契約書を提出しないとイケないが、英語で結んだ場合も、ロシ

ア語版を提出する必要があることが多いので、ロシア語版も「英語版の翻訳」として用意してもらおうと、急に要求されたとき、あわてなくて済む。

- * 採集品リストには、学名、部数、採集場所（～州、程度でよい）を記入する。同定できない場合どうするか？と「管理局」に聞いたところ、属名+ sp. でもいい、と言われた（たとえば“*Carex* sp.”）。採集品リストは、3）、4）の各段階で添付される他、最終的にそのまま植物衛生証明書（Phytosanitary Certificate）の付属書となるので、メモリースティックなどに入れていつでも加工可能な状態にしておくとうい。

3. 発送

法律原文によると、発行された植物衛生証明書は15日間有効（延長手続き可）なので、郵送の場合、その間に郵便局から送る。箱は封をした状態で、証明書のコピーを貼り付けておけば、新たに開けて調べられることはないと思われる。証明書のコピー+付属書（＝採集品リスト）は念のため箱の中にも入れ、自分でも持っておく。原本は郵便局に渡す。

手続きに対する支払いは必要なく、郵便局において、郵送料と、通常貨物でも取られる税関手数料（約150円）を支払うだけであった。

4. その他

今回はロシア・カムチャツカ火山研究所と京都大学総合博物館との間で、植物の採集・標本の国外発送の項目を含む、共同研究の契約書を交わしていた。契約締結については、組織の同意を得る必要があること、契約上の義務が生じること等を考えると慎重にならざるを得ないが、標本の搬出に関しては、契約書を提示できると、上記のように明確な方法によって手続きできる。法律を読むと、契約に基づかない場合もあり得る、という書き方をしているが、今回は、必須書類という扱いであった。日本のある地学関係の研究室でも、契約に基づいてロシアからサンプルを送ったそうである。

契約に基づかない方法で外国のパートナーに植物搬出の手続きをしたロシア人担当者の話を聞いたところ、手続きの方法が非常に不明瞭であり（やり方が決まっていない・責任を持つ機関が決まっていない）、あちこちの機関を回ってtry and errorを繰り返しながら何日もかかって必要書類を集めたということである。

外国人がロシアを訪れると、ロシア側受け入れ機関は、ビザを出すための招待状の手続きから始まって、訪問中の外国人滞在証明書の手続き、保護地などに入るためには立ち入り許可書など、外国人についての手続きに振り回されることになる。従って、ロシア側の負担を減らすためにも、また、何よりも、確実に標本を搬出するためにも、標本搬出は可能な限り契約に基づいて行うべきかと思われる。

最後に、標本ではなく生植物を搬出する場合も、基本的にはこの法律に従うと思われるが、税関コード（ТН В Э Д No.）が異なる（おそらく第2部：生植物と生植物からの製品）ので、別の手続きが必要かもしれない。

参考

<http://www.biodat.ru/db/rbp/index.htm>

ロシアレッドデータブック第2巻 [植物] (1988) の完全オンライン版

レッドデータブックについては、ロシア全域のもの以外に、各地方のものがある。

<http://www.tks.ru/db/tnved/tree>

税関コード表（ロシア語のみ）

I

(наименование субъекта
Российской Федерации)

ЗАЯВКА
на выдачу фитосанитарного сертификата

① Экспортёр и его адрес: _____

② Получатель и его адрес: _____

③ Количество мест и описание упаковки _____

④ Отличительные знаки (маркировка) груза _____

⑤ Место происхождения груза _____

⑥ Документ о происхождении груза _____

⑦ Способ транспортировки груза (автомобильный, морской, речной, воздушный, железнодорожный) _____

⑧ Наименование подкарантинной продукции и ее количество (кг, тонн, куб.м, кв. м, пог. м, шт.) _____

⑨ Ботаническое название растений _____

⑩ Порода древесины (для лесопроизводства), сортимент _____

⑪ Место досмотра _____

⑫ Представитель получателя груза (Ф.И.О.) _____

⑬ Контактный телефон, факс, адрес электронной почты _____

⑭ _____ (подпись) ⑮ _____ (расшифровка подписи)

М. П.

⑯ “ — ” _____ 2007 г.

図 1. 植物衛生証明書申請用紙

- ① 貨物の送付者 (Exporter): 本来, ロシア側 (契約相手) の住所氏名を書くべきと思われるが, 今回は自分 (受取人) の住所氏名を記入した (英語で記入)。
- ② 自分 (受取人) の住所氏名 (英語で記入)。
- ③ 送付ケース数: ケース数は適当に入れておく (後で実際の数に直してもらう)。
- ④ マーキング: なし。
- ⑤ 貨物の原産地: ~州。
- ⑥ 原産地についての書類: なし。
- ⑦ 送付方法: 航空便・「〇〇空港」と英語で書く。
- ⑧ 貨物の名称: 「植物標本」ここに税関コード T H B Э Д No. * を記入。植物標本は「9705000000」。
- ⑨ 植物名: 「添付」と書いて, 採集リストを添付。
- ⑩ 木材製品のための材木の種類: なし。
- ⑪ 検査場所: ~市。
- ⑫ 貨物受取人: 自分の名前。
- ⑬ 連絡先: ロシアの契約相手の住所・機関・Tel, E-mail。
- ⑭ サイン: これも, 本来, ロシア側 (契約相手) のサインと思われるが, 今回は, 自分のサイン。
- ⑮ サインした人の名前 (活字体)。
- ⑯ 申請日日付。

資料

「植物衛生証明書と検疫証明書の手続きについて」
(ロシアからの搬出に関する部分のみ抄訳)

検疫の対象物(検疫の必要な試料・貨物)に対するロシア連邦獣医学・植物衛生管理局(以下「管理局」と略)による植物衛生証明書と検疫証明書の発行手続きに関する2007年3月14日付 ロシア連邦農業経済省の通達 No. 163(ロシア法務省登録2007年4月20日登録番号第9304号)を承認する。

＜越境の際の植物衛生証明書と検疫証明書の入手の手続き＞

検疫の対象物(検疫の必要な試料・貨物)のロシア国内からの搬出に関する植物衛生証明書と、ロシアへの搬入された検疫の対象物に対する検疫証明書の、発行申請の審査や、発行・発行拒否の決定について、検疫監査連邦当局(以下「管理局」)が決定するための手続法。

ロシア連邦領からの検疫の対象物の搬出については植物衛生証明書が必要である(ロシア連邦領への持ち込みについては検疫証明書(Quarantine Certificate)が必要)。

植物衛生証明書は発行日からロシア国境の越境の日までを考慮し、E C諸国向けには14日、その他の地域向けには15日間有効とする。

植物衛生証明書の再発行手続きは、有効期間が過ぎてから15日以内に行われなければならない。(略)。

＜植物衛生証明書、検疫証明書の申請の審査の方法＞

「管理局」または各地の「管理局」当局は、法規付属書1,2に従って申請された植物衛生証明書、検疫証明書の申請を検討する。

植物衛生証明書、検疫証明書の発行のため、搬出が行われる地域の「管理局」当局は、次の書類を検討しなければならない。

1) 以下の書類のコピー

申請者が統一国家法人目録または統一国家経営者目録に含まれているという証明書

申請者が税務機関に登録されているという証明書

2) (持ち込みの場合は) 検疫対象物が衛生的な倉庫に保管されているという証明書

3) ロシア連邦領内から検疫対象物が持ち出される基礎となる契約書のうち、植物検疫対象物に対する植物衛生上の必要性に関する部分(契約を結んでおり、そのような必要がある場合)

4) 申請者の身元を示すパスポートまたはその他の書類

植物衛生証明書、検疫証明書の申請は、「管理局」または各地の「管理局」当局によって、申請を受け取った日に記録される。

＜植物衛生証明書、検疫証明書の発行＞

植物衛生証明書、検疫証明書の発行は、植物検疫を行う権限を持つ連邦組織(「検査局」)の検査結果に基づいて、「管理局」または各地の「管理局」当局によって発行される。

植物衛生証明書、検疫証明書の発行または発行拒否は、「管理局」または各地の「管理局」当局に申請書と申請用添付書類が届いてから30日以内に行われなければならない。

搬出する植物を消毒する場合～(略)

各地の「管理局」当局で手続きされた植物衛生証明書、検疫証明書は、登録番号をつけるた

めに「管理局」（本局）へ送られる。「管理局」（本局）の登録番号のない植物衛生証明書、検疫証明書は無効である。

「管理局」または各地の「管理局」当局は、以下の1つまたは複数の理由により、植物衛生証明書の発行を拒否することができる。

植物衛生証明書の発行に必要な書類の不足

植物衛生証明書の発行に必要な書類が疑わしい場合

植物衛生証明書の発行に必要な書類が適切に手続きされなかった場合

対象貨物が、輸入国の衛生基準にあわない場合

他（略）

植物衛生証明書、検疫証明書の発行または発行拒否の通知は、その決定のあった日から3労働日以内に、且つ、「管理局」または各地の「管理局」当局に申請が記録されてから30日以内に行われなければならない。

以上

書評

情感のある写真図鑑

「四季の野の花図鑑」 いがりまさし著

技術評論社 ISBN978-4-7741-3424-6 ¥2,380 + 税

タイトルには「四季の…」とありますが、この本の最大の特徴は一年を24の季節に分ける「二十四節気」に従って、植物の開花を追っていることにあります。春とひとくちにいても、「立春」に始まり、雪が雨に変わるという「雨水」、「春分」…やがて穀物の生長を助ける「穀雨」となれば、「立夏」が目の前です。「二十四節気」は、繊細な季節感を持つ日本人の感性が生み出したものですが、この図鑑はその微妙な季節の移り変わりを植物達も敏感に察知していることを教えてくれます。24の季節の扉を飾るのは、移ろう季節の光や風の気配を捕らえた美しい写真と、簡潔でいて情緒のある短い文章。図鑑というより歳時記の趣さえあります。

その一方、植物の名前を知る上では、コンパクトなのに密度が濃くて質の高い写真図鑑です。よく似た植物をできるだけ多く取り上げて、その見分け方のポイントを的確な写真で示してあるので、検索表をたどるのが苦手な初心者でも正しい植物の名前に到達できます。表紙のレイアウトは実に標準的な初心者向け実用書のイメージなのですが、だまされてはいけません。分類学的に新しい情報も盛り込まれているので専門家にとっても不足はありません。

役に立つ図鑑、美しい写真集は他にも数多くありますが、学術的厳密さと詩的情緒を両方満たしてくれるこの本は、科学者の目を持つ詩人でもあるいがりさんならではの味わいです。

(副島 顕子；大阪府立大学)



本の紹介

共進化の生態学：生物間相互作用が織りなす多様性

種生物学会／編 横山 潤・堂園 いくみ／責任編集, A5 判・368p +カラー口絵 8 p, 文一総合出版 ISBN978-4-8299-1069-6

割引価格(税込) 3,192 円。(税込定価 3,990 円)

生物どうしが互いに対応し合うことによって起こる共進化現象の研究は、進化生物学の醍醐味です。その実例をとらえ、密接な関係が形づくられてきたプロセスを探る意欲作。様々な展開をみせる最新の共進化研究へあなたを誘います。

目次

- 第 1 章 マルハナバチが形づくる花のかたち：マルハナバチ送粉系における花形態の多様化
- 第 2 章 ツバキシギゾウムシの共進化：厚い果皮と長い口吻の軍拡競走
- 第 3 章 小さな花に秘められたパートナーシップ：チャルメルソウ類多様化の歴史を復元する
- 第 4 章 絶対送粉共生系における共種分化過程の解析：イチジク属－イチジクコバチ類送粉共生系を例に
- 第 5 章 奇跡の共進化：カンコノキ属における絶対送粉共生系の発見と進化史研究
- 第 6 章 アリ植物とアリ：共多様化の歴史を探る
- 第 7 章 マメー根粒菌共生系の進化
- 第 8 章 アーバスキュラー菌根共生系から根粒共生系への進化
- 第 9 章 抵抗性品種は良か悪か：病原体の進化を見越した植物の作付戦略
- 第 10 章 性のパラドックスと宿主・病原体間の共進化：「赤の女王」の実体に迫る
- 第 11 章 系統解析プロトコル：塩基配列から分子系統樹へ
- 第 12 章 共進化研究のための共種分化解析法

割引購入の方法

下記の必要事項を記入の上、菊地宛にメール、ファックス、はがきで注文してください。割引価格は 3,192 円(税込)ですが、このほかに送料が 1 冊につき 210 円必要です(4 冊まで)。5 冊以上を同一箇所へ一度に送る場合の送料は無料です。勝手ながら、本案内による割引購入は 2008 年 12 月末日までとさせていただきます。

必要事項: 1) 「分類学会ニュースレターの割引購入紹介による」と明記, 2) 本のタイトル「共進化の生態学：生物間相互作用が織りなす多様性」, 3) 注文部数, 4) 注文者の氏名, 5) 送付先の住所, 6) 電話番号, 7) 公費購入の場合は必要書類と注意事項(日付ブランク, 宛先など)の指示。

申込先：文一総合出版 担当：菊地 千尋

メールの場合：charlie@bun-ichi.co.jp

ファックスの場合：03-3269-1402 必ず宛先(菊地宛)を表記してください。

はがきの場合：〒162-0812 東京都新宿区西五軒町 2-5

株式会社文一総合出版 編集部 菊地宛

支払い：代金は後払いです。本と一緒に請求書、郵便振替用紙をお送りしますので、振替用紙を利用して郵便局から振り込んでください。銀行振り込みの場合は、請求書に記載の口座に振り込んでください。いずれも手数料は注文者の負担となります。(藤井 伸二・菊地 千尋)

いきもの便り

カサキヤリミドリ 動く槍の名前あれこれ

仲田 崇志 (慶應義塾大学)

私が研究を始めた頃に出会った微細藻類に「カサキヤリミドリ」と呼んでいる生物がいます。この生物は両端の尖った細長い単細胞藻類で、前端にある2本の鞭毛で泳ぎます。

ある日、千葉県の花田ヶ池から採集したサンプルを顕微鏡で覗くと、特徴的な細長い細胞が見えました。そこで興味を持って種名を調べると、*Chlorogonium kasakii* という、野崎久義先生が培養株に基づいて1998年に記載した新種と同じものだと解りました。

この生物はこれまでイギリス産の1株しか報告がなかったため、世界で2例目、かつ日本新産種として植物研究雑誌に報告しました。この論文で私はかねてから考えていた計画を実行に移しました。

実は単細胞藻類のほとんどは和名を持っていません。そのためアマチュアにとっては敷居が高い生物群であるとも言えます。かく言う私自身も中学生の頃に初めて「植物プランクトン」の図鑑を調べたときに、和名がほとんどないことにがっかりした覚えがあります。

そんなトラウマ(?)もあり、せっかく日本の藻類を報告するならば和名をつけてやろうと思い立ちました。*Chlorogonium* 属にも和名がなかったため、まずは属の和名を考えなければなりません。そこで細長い形にちなんで「ヤリミドリ(槍緑)属」との和名をあてました。種小名の *kasakii* は車軸藻の専門家である故・加崎英男先生にちなんでいることから、属名と併せるとカサキヤリミドリ(加崎槍緑)となります。

ところがここで問題が生じます。分子系統解析を進めた結果、ヤリミドリ属が多系統で

あることが示されてしまったのです。カサキヤリミドリはヤリミドリ属のタイプ種である *C. euchlorum* とは異なる系統に属することから、新しい属に移す必要がありました。

そこで私は新属の名前を決める際に、今度は和名に合わせて「槍」の名前を付けようと考えました。その中で候補に出てきたのが「グングニールの槍」です。この槍は北欧神話の主神であるオーディンが持つ槍とされ、敵をめぐめて動き、敵を倒した後は自分の手元に戻ってくるそうです。自発的に動く槍とはまさに鞭毛藻類にピッタリ、というわけで、新属の名称はそのままグングニール(*Gungnir*) 属になりました(記載論文は6月に出版される予定です。Journal of Phycology)。そしてカサキヤリミドリの学名は *Gungnir kasakii* になります(和名はそのまま)。

何故このような細長い形が進化したのかは謎ですが、私は捕食者に対する適応ではないかと推測しています。同じ体積であれば細長い方が捕食者の口には入りにくいはずです。ヤリミドリの仲間「槍」の形で身を守っているのかもしれない。



花田ヶ池産のカサキヤリミドリ。右上が前端(鞭毛が2本付いている)。スケールバーは10 μm。(撮影: 仲田 崇志)

ニュースレターへの情報提供、寄稿大歓迎です。ご連絡は下記まで。

東 隆行 〒060-0003 札幌市中央区北3条西8 北海道大学植物園

TEL: 011-221-0066 FAX: 011-221-0664 e-mail: azuma@fsc.hokudai.ac.jp

水草通信 淀川下流のボタンウキクサ

志賀 隆 (大阪市立自然史博物館)

5月になり、沢山の草花が野山を彩ります。フィールドが楽しい季節になってきましたね。今回は私が勤めている大阪周辺の水草の話題です。

近畿の主要河川である淀川では、ここ数年秋になると外来植物が大繁茂して、テレビ報道でも取り上げられています。もし、お手元にパソコンとインターネットが出来る環境が整っていれば、是非 Google マップや Google Earth で淀川の下流部をご覧になってください。淀川の現況を航空写真から確認することができるでしょう。ワンド周辺の川の両岸が緑のベルトの様になっています。芝生広場？ゴルフの練習場？いえいえ、これはボタンウキクサ *Pistia stratiotes* L. (サトイモ科) が繁茂しているのです。

ボタンウキクサは南アフリカ原産といわれる浮遊植物で、世間には別名のウォーターレタスの方がよく知られています。淀川では2000年に下流の城北ワンドの一角で繁茂したことが確認され、ここ数年は、毎年秋になると淀川下流域で大繁茂し、大量のボタンウキクサが大阪市内の大川、土佐堀川を流下して大阪湾に流れていきます。水の流れが淀んでいる場所では溜まり、船の航行の邪魔になる他、大量の枯死体は沈み、下流域に生育する二枚貝など水生生物に対して大きな影響を与えています。

ボタンウキクサは低温に弱く、普通は冬になると枯れてしまうのですが、生育している水域に温かい工場排水が生育地に流れ込んでいたり、湧水が出ている一部の場所では、冬も水温が低下せず越冬しています。また、ボタンウキクサは種子越冬も行い、2年くらいは土に残っていても十分発芽することができるようです。淀川のボタンウキクサの場合、種子から発芽した個体のほか、上流の越冬場

所からも株が流下して供給されているようです。

淀川下流部で異常繁茂している外来水草の生育形を見ると、多くは浮遊植物(ボタンウキクサ、ホテイアオイ)や、マット状に水面に群生する抽水植物(チクゴスズメノヒエ、ナガエツルノゲイトウ、ミズヒマワリ、オオフサモなど)で、淀川下流部が「ため池化」していることを如実に表しています。在来種でもヒシやクロモ、マツモが多く、まさにため池のようです。この「ため池化」は河川の拡幅と淀川大堰ができて、湛水域が拡大したことに起因しています。しかし、この大堰は生活や工業と密接に結びついていて、簡単には外来水草の異常繁茂の問題を解決できない理由になっています。

今年も種子発芽が始まる前の4月に淀川を歩くと、もう既に3cm程度のボタンウキクサが流れ着いていました。さて、今年は何のくらい増えるのでしょうか？



上：ボタンウキクサ。大きい株は30cmを超える。
下：繁茂するボタンウキクサ。芝生ではありません。
(撮影：志賀隆 2007年10月、大阪市旭区にて)